

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 学級全員ではありませんが、政治に対する意識の変容が見られたので、生徒の社会に参画しようとする態度を育成するきっかけとなる授業を展開できたと考えます。
- 「A市を活性化させるための政策を考える」という身近な問題に主体的に取り組むことで、地方の政治に対する興味・関心を向上させることができたと考えます。
- グループ協議を取り入れたことで、生徒に多様な考えに触れさせ、その考えの中から最も効果的な政策を選択させることができました。判断力の育成につなげることができたと考えます。
- 市長への政策の報告会を取り入れたことで、現実的に自分たちの声を政治の場に届けることができるということを生徒に実感させることができたと考えます。

(2) 研究の課題

- 主権者としての自覚を促し、必要な知識と判断力、行動力の習熟を進める教育を行うことを目標にしましたが、授業に詰め込みすぎたので指導内容を精選する必要があります。
- 指導計画を4時間で設定しましたが、時間不足を感じました。授業時間をもう少し確保した上で、十分な追究活動を行わせて発表や議論を行わせる必要があったと考えます。
- 本授業の対象学年は高校1年生でしたが、2年次、3年次と系統的な主権者教育を行うことができれば、生徒の主権者としての成長につながると思います。
- 地域の振興・創生の観点から主権者教育を行うにあたっては、地方自治体の選挙管理委員会などの外部機関との連携が欠かせないと考えます。計画的に準備を進める必要があります。

終わりに

本研究は主権者教育をテーマとして行いましたが、A市の市長様、また市役所の担当職員の方の御協力により、近い将来有権者となる生徒のために、より実践的な内容にすることができたと思います。大変お世話になりました。ここに御礼申し上げます。